

OTSU - E : ANOTHER HISTORY OF EDO PAINTING

欲しい！欲しい！欲しい！欲しい！

《鬼の行水》 日本民藝館蔵



何としても手に入れたい！誰がための画か—民衆から文化人へ

# 大津絵

もうひとつの江戸絵画

2020

9.19 sat  
↓  
11.8 sun

入館チケットは日時指定の事前購入制

※ご購入前にローソンチケット(「コード」37746)をお買い求めください

●障がい者手帳等持参の方は100円引き(介添者1名は無料)

【主催】東京ステーションギャラリー「公益財団法人 東日本鉄道文化財団」

【企画協力】公益財団法人 日動美術財団

【特別協力】公益財団法人 日本民藝館

東京ステーションギャラリー  
TOKYO STATION GALLERY



東京 TOKYO STATION CITY



JR東日本

もうひとつの江戸絵画

# 大津絵

民衆が生み出した無銘の絵画

# ŌTSU-E

ANOTHER HISTORY OF EDO PAINTING

これまで大津絵の展覧会は、博物館や資料館で開催されることが多く、美術館で開かれたことはほとんどありませんでした。それは大津絵が、主として歴史資料、民俗資料として扱われてきたからですが、本展では、大津絵を美術としてとらえなおし、狩野派でも琳派でもなく、若冲など奇想の系譜や浮世絵でもない、もうひとつの江戸絵画としての大津絵の魅力に迫ります。

大津絵は江戸時代初期より、東海道の宿場大津周辺で量産された手軽な土産物でした。わかりやすく面白みのある絵柄が特徴で、全国に広まりましたが、安価な実用品として扱われたためか、現在残されている数は多くありません。

近代になり、街道の名物土産としての使命を終えた大津絵は、多くの文化人たちを惹きつけるようになります。文人画家の富岡鉄斎、洋画家の浅井忠、民藝運動の創始者である柳宗悦など、当代きっての審美眼の持主たちが、おもに古い大津絵の価値を認め、所蔵したのです。こうした傾向は太平洋戦争後も続き、洋画家の小糸源太郎や染色家の芹沢銈介らが多くの大津絵を収集しました。

本展は、こうした近代日本の名だたる目利きたちによる旧蔵歴が明らかな、いわば名品ぞろいの大津絵、約150点をご覧くださいというものです。



A



B



C



D



E



F



G

A / 《鬼の念仏》笠間日動美術館蔵 B / 《長刀弁慶》大津市歴史博物館蔵 C / 《猫と鼠》『古筆大津絵』より 笠間日動美術館蔵  
D / 「藤娘」《大津絵図巻》より 福岡市博物館蔵 E / 「外法梯子刺」《大津絵図巻》より 福岡市博物館蔵 F / 《青面金剛》静岡市立芹沢銈介美術館蔵  
G / 《提灯釣鐘》日本民藝館蔵 \*会期中一部展示替えがあります \*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催内容が変更になる場合があります

**本展チケットは日時指定の事前購入制です。ご来館前にローソンチケットをお買い求めください。**

**購入方法** | **【販売期間】** 9.7(月)10:00 ~ 11.8(日)17:00 / **Lコード:** 37746  
**【店頭購入】** ローソン・ミニストップ店内Loppi **【インターネット予約】** <https://l-tike.com/event/otsu-e2020ex/>

●入館時間枠など詳細は当館サイトまたはインターネット予約サイトでご確認ください。●障がい者手帳等お持ちの方は100円引き(介添者1名は無料)。●前売券・団体券の販売、割引・クーポンの使用はすべて中止とさせていただきます。●以下に該当する方は直接美術館へお越しください(日時指定不要)。中学生以下、年間パスポート・東京駅周辺美術館共通券2020・招待券・招待ハガキ・株主サービス券をお持ちの方 ●会期最終週を除く平日のみ、ローソンチケットが販売枚数に達していない場合に限り、美術館でもチケットを販売します。確実にご入館いただくためには事前購入を強く推奨します。なお、販売状況のお問い合わせにはお答えできませんのでご了承ください。

**【次回展覧会】** 河鍋暁斎の底力 2020.11.28(土) ~ 2021.2.7(日)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1  
Tel.03-3212-2485 <http://www.ejrcf.or.jp/gallery/>  
【交通】JR東京駅 丸の内北口 改札前



東京ステーションギャラリー  
TOKYO STATION GALLERY

